

1月26日資料

南魚沼市後期教育基本計画

～笑顔あふれる教育プランⅡ～



平成28年4月
南魚沼市教育委員会

目次

※説明が必要な用語については(※印)で示し、資料編に「用語の解説」として掲載しています。

I 総論編

1 策定に当たって	2
2 策定の背景	4
3 現状と課題そして目指す方向	6
4 目指す教育とその枠組み	8
5 計画推進に当たって	13

II 学校教育・幼児教育推進編

1 策定に当たって	16
2 策定の背景	16
3 現状と課題そして目指す方向	19
4 6つの基本方針と25の重点施策	29
5 計画推進に当たって	31
6 次期計画策定に向けて	32

III 生涯学習・社会教育推進編

1 策定に当たって	34
2 策定の背景	34
3 現状と課題そして目指す方向	37
4 学びの郷南魚沼プラン	39
5 3つの基本方針と8つの重点施策	42
6 計画推進に当たって	43
7 次期計画策定に向けて	43

IV 子ども・若者育成支援推進編

1 策定に当たって	46
2 策定の背景	46
3 現状と課題そして目指す方向	49
4 2つの基本方針と12の重点施策	53
5 計画推進に当たって	54
6 次期計画策定に向けて	54

V 家庭教育編

1 家庭教育の重要性を語る座談会	56
2 教育長と保護者の家庭教育に関する対談	64

VI 資料編

1 南魚沼市市民憲章	68
2 計画策定経過	69
3 用語の解説	70
4 平成28年度～32年度児童生徒数見込	73
5 市教育基本計画策定検討委員名簿	74
6 教育基本計画概略版	75

(2) 目指す方向

- この課題を解決するために、以下の2点に特に重点を置いた取組をしていきます。その上で、生涯学習・社会教育の必要性を市民に喚起していきます。

- ・生涯にわたっての学びを可能とする持続可能な生涯学習システムを構築する。
- ・青年期・成人期を中心として、現代社会に適合した学習の機会をできるだけ近場で確保する。

- 具体的には、次の3項目です。

- ①南魚沼市にある教育資源を活用し「子どもからお年寄りまで」一貫性のある生涯学習システムモデルの構築とその普及を目指します。
- ②市民が持つ、より高次で現代的な学習欲求を満足させるために「市内及び近隣で完結する」学習環境整備を目指します。
- ③行政が提供する事業を市民が受動的に受け入れる従来型の生涯学習・社会教育から、市民自らが望む事業を行政の支援を得ながら能動的に企画・運営する連携協働型生涯学習・社会教育への転換を目指します。

- 上記①～③に沿った具体的施策の実現に向けて現実に即した組織体制や仕組みの検討を進め、必要な措置を段階的に講じていきます。
- 公民館、文化振興、図書館、スポーツ推進などに関わる既存の社会教育施策については、実施計画が策定されるまでは当面、従来の社会教育計画に沿って実施することとし、計画が策定された段階で必要な改廃などを行います。

4 学びの郷南魚沼プラン

- 南魚沼市の生涯学習・社会教育が目指す方向に沿って、南魚沼市が有する教育資源（自然、歴史・文化、人など）を活かし、「地域の持続的発展」と「次世代への継承」を意識した一貫性のある市民主導の生涯学習・社会教育システムのイメージプラン「学びの郷南魚沼プラン」^{注3}を策定しました。
- このプランは、学びの力を信じ、学びを大事に、学びを盛んに推進し、誇れるふるさと南魚沼にしていこうとする未来志向の計画です。そして、そのプランの土台と

注3 「南魚沼市がめざす生涯学習・社会教育システム」を可視的に理解するために現実を素材として立案したイメージプランであり、このまま実行できるわけではない。しかし、このイメージプランを土台として、早急に詳しいグラウンドデザインを作成し、実行に移すことが重要である。

なる基本理念を「学びあい、教えあい、伝えあい、そして輝く、わたしと地域」としました。

- この基本理念には、他人任せや、行政任せでなく、「市民が教わったり、教えあったり、伝えあったり」しながら、「自分たちの手で、郷土南魚沼らしい教育」を推進し、「自分も輝き、地域を輝やかせたい」という強い期待を込めました。
- また、この基本理念には、子どもも、大人も、お年寄りも、世代間ギャップを乗り越えて交流し、世代継承を推進することの意味合いも盛り込んでいます。

学びの郷南魚沼プラン

学びあい、教えあい、伝えあい、そして輝く、わたしと地域

子ども たんけん南魚沼	大人 市民カレッジ	高齢者 幸齢義塾
南魚沼の自然と、そこで人々が築き上げてきた暮らしや歴史・文化を体験的に理解し、その豊かさを五感で認識する。 地域に興味を持ち、さらに深く知り、関わりたくなる気持ちを醸成する。 外国を含む他地域との交流を通じて、互いの地域の価値を共有する。	南魚沼の持続的な発展を目指し、市民が互いに支えあうコミュニティを構築する。 地域の人と自然を出発点に、南魚沼に根ざした技と知識を発展させる。 誰でもいつでも学べる環境を整える。高齢者層と若年層との連携が展開される。	南魚沼で培ってきた長年の経験や知恵・技を引き出しあい、再生しあうことによって次世代と共有していく。 高齢者同士の交流、互いの健康増進、意識の活性化維持も図る。

題材として

自然(雪＝遊ぶ、かんじきを作る、利用する、他 川＝魚取り、泳ぐ、舟 山＝登る、歩く、木を切る、手入れをする 生き物＝モリアオガエル、ハッチョウトンボ、シナイモツゴなど超1級の生き物)
 農(米づくり、田んぼの仕組み、多様な野菜、調理方法、わらの利用、田の利用の変遷＝歴史の変遷)
 食(山菜、味噌、豆腐、どぶろく、漬物、ハレの食)
 文化(山伏、神社仏閣、木喰仏、年中行事)
 伝統工芸(縄ない、歌舞伎、塩沢つむぎ)
 人(市民の経験や歩み)

学びの仕組み・場

教室・イベント、MOOC(Massive Open Online Course オンラインの公開授業)、自主ゼミナールなどを組み合わせ、歴史、文化、科学、言語など趣味教養からものづくり、経営、健康講座などの実学まで多様なニーズへ対応

(1) 「子ども、大人、そして高齢者」どの世代も「南魚沼」

- 子ども期には「たんけん南魚沼」で南魚沼の自然や文化を体験的に理解し、その豊かさを五感で認識させ、地域に興味を持たせ、関わりたくなる気持ちを醸成します。また、外国を含む他地域との交流を通じて、互いの地域の価値を共有することを学びます。
- 大人期の「市民カレッジ」は、いわば「大人の学校」で、できるだけ市内・近隣で短大・専門学校レベルの学びが完結するよう学習環境を整えることを検討し、また、南魚沼市の持続的な発展を目指し、市民が互いに支えあうコミュニティを構築します。さらに、地域の人と自然を出発点にして、南魚沼市に根ざした技と知識を発展させます。

- 高齢期には「幸齢義塾^{注4}」で、人生で培ってきた永年の経験や知恵・技を互いに引き出し合い、再生し合い、次世代に共有していきます。さらに、高齢者同士の交流、互いの健康増進、意識の活性度維持も図ります。
- 「たんけん南魚沼」も「市民カレッジ」も「幸齢義塾」も、「学びあい」「教えあい」「伝えあい」の理念で、行政の支援を受けながら市民が主体となって企画・運営します。年長者が年少者に教えたり伝えたりするだけでなく、年少者に励まされたり教わったりすることも大いにあり得ます。こうした活動を通して高齢者層と若年層との連携も展開されることが期待できます。身近にある郷土の「自然，農，食，文化，伝統工芸，人などが題材となり得ます。

<自然>

雪…遊ぶ，かんじきを作る，利用する，など 川…魚取り，泳ぐ，舟など
山…登る，歩く，木を切る，手入れするなど 生きもの…モリアオガエル，ハッチョウトンボ，
シナイモツゴなど超一級の生きものたち

<農>

コメづくり，田んぼの仕組み，多様な野菜，調理方法，ワラの利用，田の利用（歴史）の変遷

<食>

山菜，味噌，豆腐，どぶろく，漬物，ハレの食など

<文化>

山伏，神社仏閣，木喰仏，年中行事など

<伝統工芸>

縄ない，歌舞伎，塩沢つむぎなど

<人>

市民の経験や歩み

(2) 学びの方法・形態

- 学びの方法は、教室、イベント、オンラインの公開授業（MOOC(Massive Open On line Course)）、自主ゼミナールなどを組み合わせ、歴史、文化、科学、言語など趣味教養から物づくり、経営、健康講座など実学まで、多様なニーズへ対応します。
- 市民自らが望む講座やイベントを行政の支援を得ながら企画・運営する連携協働型生涯学習・社会教育への転換を目指します。また、平成27年10月1日に市が「スポーツ健康都市宣言」をしたことから、新たな活動の可能性もあります。
- こうした活動を、市内のあちこちで展開し、機能させれば結果として一人一人の市民が輝くとともに、南魚沼市が更に輝きを増すことにつながります。その意味では、施設整備計画やプログラム開発計画にとどまらず、市民あがての学びムーブメントとも言える計画です。

注4 平成24年3月文部省「超高齢化社会における生涯学習の在り方に関する検討会」「長寿社会における生涯学習の在り方～人生100年 いくつになっても学ぶ幸せ「幸齢社会」からヒントを得た。欧米では、高齢を一般的にはoldやaged, seniorなどで表すが、積極的な意味を込めて「culmination（達し得る，または達しえた）最高到達点，最高潮，（努力した）結果，成果」を推奨する研究者も多い。「義塾」は身分などに関係なく、一般の子弟も平等に教育を受けられるよう、寄付金などでつくられた塾をさす古い言葉。

5 3つの基本方針と8つの重点施策

基本方針1 「学びの郷南魚沼プラン」を実行に移すことを念頭に、より詳細なグランドデザイン及び実施計画を策定し、準備が整ったところから実行する。

重点施策	
施策 1-1	・学びの郷プラン実行会議（仮称）を設置し、グランドデザインを28年度末を目処に策定する。
施策 1-2	・南魚沼市が有する教育資源の整理・発掘及び現在の教育関連事業を学びの郷プランの視点から再検討し、見直したものをグランドデザインに反映させる。
施策 1-3	・学びの郷プラン実施計画を28年度末を目処に策定し、1年間の準備期間後、30年度から順次実施する。

基本方針2 地元での学びの継続という市民の欲求を満足できるよう短大・専門学校レベルの高等教育の場（市民カレッジ（仮称））を設ける。

重点施策	
施策 2-1	・市民カレッジ実行会議（仮称）を設け、グランドデザインを28年度末を目処に策定する。
施策 2-2	・現在の社会教育関連事業を市民カレッジ（仮称）の視点からその協働可能性を評価し、グランドデザインに反映させる。
施策 2-3	・市民カレッジ実施計画を28年度末を目処に構築し、1年間の準備期間を経て30年度から実施する。

基本方針3 市民や市民グループが主体的に立案した生涯学習・社会教育関連企画を実現・実行できるような仕組みと支援体制づくりを、生涯学習センター（仮称）の設置の是非を含め検討する。

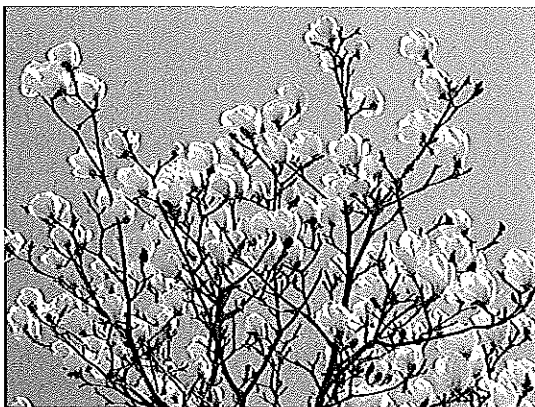
重点施策	
施策 3-1	・基本方針3を具現するための会議を設置し、28年度末を目処に検討する。
施策 3-2	・実施計画を28年度末までに作成し、1年間の準備期間を経て、30年度から実施する。

6 計画推進に当たって

- 以下の点に留意して計画の推進に当たります。
 - ・現実を踏まえた着実かつスピーディな推進を目指します。
 - ・市民サイドに立った市民目線の推進を目指します。
 - ・市の人口減少が続くと予想されることから、施設規模等はできるだけコンパクトにまとめるよう留意します。
 - ・知の拠点である図書館や心と体の健康を保つ体育施設等の有効活用と更なる充実に努めます。
 - ・事務等の効率化を図るために、ICTの導入・活用を図ります。
 - ・SWOT分析^{注5}、費用対効果、PDCAサイクルなどマネジメントの知見を導入し、無駄を極力排除した堅実な推進を目指します。
 - ・外部の有識者やプロフェッショナルの活用を図り、効率よく計画を推進します。
 - ・市民への広報活動を重視します。

7 次期計画策定に向けて

- 今回の計画は、南魚沼市で初の生涯学習・社会教育推進計画であり、理念的なものになっていることは否めません。計画の中心となる「学びの郷南魚沼プラン」は、短期間で完結するような計画ではなく、まとまった期間を要します。これからも急激な社会変化が予測される状況の中で、社会情勢の変化などに柔軟に対処しながら最適解を模索し続けていかなければなりません。
- その際、基本軸はぶれることなく、常に計画・実施・評価・改善をしながら進化し続ける計画策定にしていく予定です。



<南魚沼市の木：コブシ>



<南魚沼市の花：カタクリ>

注5 SWOT分析とは、目標を達成するために意思決定を必要としている組織や個人のプロジェクトやベンチャービジネスなどにおいて、外部環境や内部環境を強み (Strengths)、弱み (Weaknesses)、機会 (Opportunities)、脅威 (Threats) の4つのカテゴリーで要因分析し、事業環境変化に対応した経営資源の最適活用を図る経営戦略策定方法の一つである。